

第4章 新たな取り組みについて

1. 番組評価について

1. 番組評価検討会委員

浅野 孝夫（十文字学園女子大学短期大学部 教授）

高津 直己（メディア教育開発センター 教授）

野上 俊和（放送大学学園 ディレクター）

三尾 忠男（早稲田大学教育学部 助教授）

2. 調査研究の趣旨と概要

エル・ネット「オープンカレッジ」の講座制作は、協議会収録方式のほかに大学独自収録が増えている。また、モデル事業地区では、テレビ会議システムを併用するなど双方向性を活かした講座などを実施するなどさまざまな試みがなされている。講座の評価調査は、モデル事業地区を中心に実施されている。また、これまでの報告書において、番組の構成や講義方法について工夫を求める意見があることが指摘されている。本検討会では、この現状の調査を広くおこない、よりよい番組制作に向けて取り組むべき課題を検討することを目的としている。

本報告では、調査結果より抜粋した概要を紹介する。詳細かつ最終的な調査結果は、「エル・ネット『オープンカレッジ』番組評価検討会～受け手と送り手をつなぐために～」に報告する。その内容は、新規参加の大学と講師向けに参考となる結果を強調し、制作マニュアルとしての機能を追加することになっている。

検討会は、調査対象を番組の「受け手」と「送り手」という観点で捉え、それぞれについて次のような目的と方法で調査をおこなった。

○受け手：受講者から意見を集める。今年度はモデル事業地区を対象として、アンケート調査とヒアリング調査で、番組に対する印象と意見を集めた。

○送り手：講師へのアンケート調査と番組制作者等へのヒアリング調査を行った。講師には、番組の自己評価ならびに制作に関する現状と意見を集めた。制作を請け負ったプロダクション関係者には、制作上の課題について意見を集めた。

以下、調査結果の概要を報告する。

3. 受け手（受講者）による評価 1：アンケート調査

（1）調査方法

モデル事業地区の会場で実施されるアンケート調査に、質問項目を追加しておこなった。

（2）調査時期

平成14年10月～平成15年2月。

(3) 回収数

回答者総数は、7モデル事業地区（愛媛県、茨城県、熊本県、秋田県、静岡県、石川県、徳島県）、331名となった。性別は、女性55.6%、男性44.4%であった。年齢構成は、図1に示すとおりである。10代17%は、高大連携事業として実施した地区のものである。なお、性別と年齢の項目に未回答であったデータは削除している。

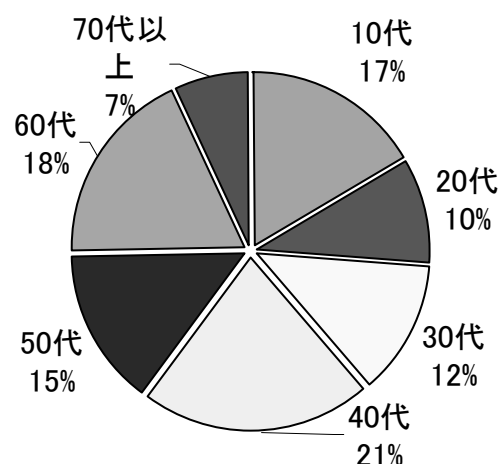


図1 回答者の年齢構成

(4) 調査結果

モデル事業地区それぞれで実施するアンケートに追加する形で調査をおこなうため、設問数を8つに絞り込んだ。

Q1～Q6は番組の印象について調査するものである。否定的な回答は少なく、総じて肯定的な結果となった。ただ、Q8において「改善点」として指摘された意見には、着目すべきものが多く、課題として取り上げる必要がある。

Q1 「放送番組」の進み方はあなたにとって速かったと思いますか、遅かったと思いますか？

	遅かった	どちらかというと遅かった	適当だった	どちらかというと速かった	速かった
全体(328名)	0.91	6.71	82.93	8.54	0.91 %

Q2 放送された内容で聞き逃したと思う箇所はありましたか？

	まったくなかった	少しあった	かなりあった
全体(327名)	34.86	59.63	5.50 %

Q3 放送された内容で再視聴したい箇所はありますか？

	まったくなかった	少しあった	かなりあった
全体(320名)	27.81	64.06	8.13 %

Q4 放送で使われた各種演出(字幕やパネル、取材映像)は講義内容に合っていましたか？

	まったく合っていない	どちらかというと合っていない	どちらでもない	どちらかというと合っている	よく合っていた
全体(323名)	0.62	4.95	13.00	39.01	42.41 %

Q5 放送中に登場した講師や出演者の話し方について、どのように感じましたか？
話し方

	聞き取り難かった	どちらかというと聞き取り難かった	聞き取れた	よく聞き取れた
全体(328名)	3.96	9.45	44.82	41.77 %

内容

	わかり難かった	どちらかという とわかり難かった	わかり易かった
全体(322名)	7.14	17.70	75.16 %

Q6 画面が単調だと感じましたか？

	まったく 感じなかった	少し感じた	単調だった
全体(324名)	43.83	46.30	9.88 %

Q7 日ごろ、教養・教育番組（テレビ）をどれくらいみていますか？印象でお答えください。

	まったく見ない	時々見る	よく見る	連続して みている 番組がある
全体(328名)	4.88	70.12	20.73	4.27 %

Q8 「視聴された放送番組」について、良かった点や改善点など気づいたことがありますしたら、以下の欄にお書きください。

8-1 良かった点 (137件)

- ・放送中にふと質問したいことがあったとき、すぐに質問として投げかけることができることが大変便利だと思いました（徳島・20代・女性）
- ・肩を張らず見聞きでき、良かったです（秋田・40代・女性）
- ・専門的なテーマについて、より高度な知識を得ることができる方法があることを知ることができた（愛媛・40代・男性）
- ・話し方が良くとてもわかり易かった（熊本・60代・女性）
- ・家で1人で見たりすると違って受講者が多いほうが楽しい（徳島・70代以上・男性）

8-2 改善点 (125件)

- ・ボードや資料による変化があれば、録画であっても見やすいと思う。実際後半は見やすく、たのしく受講できた（愛媛・20代・女性）
- ・メイン会場の場合は問題ないかもしれないが、質問をしたいこととかあっても、タイミングが合わない（秋田・30代・女性）
- ・聞き手の雰囲気講師に伝えないのかかなり単調になりやすい。もっと話以外のものを取り入れてほしい（愛媛・40代・男性）
- ・事前に資料等のテキストを読んでおけば、なおより理解できるのではないのでしょうか（愛媛・50代・女性）
- ・若い人のようにテレビの画面を見て勉強するという”ながら”族でないので、慣れてしまうのにもう少々かかりそう。（徳島・70代以上・男性）

8-3 その他 (25件)

- ・講義の内容は充実していると思うが、今の時代、決められた時間に放映するのではなく、インターネット等で受講希望者が希望する講義を希望する時間に受講できるようにすべきでないか？（愛媛・30代・女性）
- ・できれば連続シリーズが望ましい。（静岡・70代以上・男性）
- ・ヘッドホンでの受講を希望します。（愛媛・70代以上・女性）

4. 受け手（受講者）による評価2：ヒアリング調査

（1）調査方法

調査は、モデル事業実施地区、島根県と宮崎県の2ヶ所で行った。対象者は29人（島根県19人、宮崎県10人）で、宮崎大学と島根大学の連携による公開講座「日本文化の源流を探る」（5回シリーズ）を継続視聴している。その平均年齢は、両地区とも60歳代半ばである。番組視聴後、受講者らへ質問をおこない自由な雰囲気でもらった。質問要旨は、①受講番組に対する率直な感想、②映像としての分かりやすさ（画面の見やすさ、講師の話し方）、③望ましい視聴形式についての3点に整理した。

（2）調査日時

平成15年1月18日 島根県（島根県頓原公民館）。

平成15年2月15日 宮崎県（宮崎市情報教育研修センター）。

（3）調査結果

①番組内容について、多くの受講者は、一般番組形式ではなく大学の授業と同じ体系的な講義を強く求めている。また、番組内容のレベルは、意図的に下げることなく大学並みを求めている、体系化された知識・知見への要求も見られた。

<主な受講者の声>

- ・「オープンカレッジ」は大学の講義として見ている。番組は大学の講義形式でよい。
- ・放送中、たくさんの専門用語があったが気にならなかった。
- ・一番求めているのは、専門性の高い内容の番組である。
- ・一般の放送番組のような内容にしないほうが良い。

番組の内容は、教養的なものだけでなく今日性を表した幅広いものを求めている。

<主な受講者の声>

- ・農業をやっている。農業の本質が分かるものがほしい。
- ・歴史ものばかりでなく、政治経済などの生々しい話題がほしい。
- ・健康、家族、夫婦、介護問題など身近な内容を取り上げてほしい。
- ・世界の民族対立の仕組みが分かる番組がほしい。

②文字、図表など読みやすく分かりやすい画面作りを強く求めている。

③番組を視聴する方法は、個人・単独ではなく、集団形式を求めている。

<主な受講者の声>

- ・集団視聴の方がみんなで話し合い、内容の理解が進む。
- ・個人視聴では「いつでも見ることが出来ると」という安心感があるためか、かえって継続視聴が困難になる。

以上のように、2地域のヒアリングであるが、より充実した番組制作をすすめる際に考慮すべき示唆に富んだ内容が得られたと思われる。

5. 送り手による評価 1：講師アンケート

(1) 調査方法

平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」において講師を担当した大学教員に対してアンケート調査を実施した。

(2) 調査時期

平成15年1月～2月。

(3) 回収数

サンプル数は52大学114名、回答者は、47大学83名で、年齢構成は図2のとおりである。

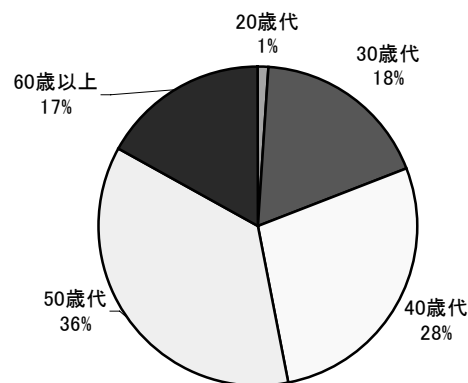


図2 回答者の年齢構成

(4) 単純集計結果と考察

本報告では、番組制作において課題として取り上げることができる項目を選択している。

①基本事項

収録に要した時間（問5）は、「3時間未満」が32件（43%）であり、平均は10時間であった。10時間を越える収録（最大120時間）が9件（12%）もあり、講師への負担についてその内容と現状を深く把握する必要がある。特に、大学独自で収録した講師のうち、

講座回数	担当講師数		
	1人	2人	3人以上
1回	22	4	1
2回	10	7	4
3回以上	2	2	33

配布された講義番組制作予算（問9。回答56名）について、「不足である」と答えた回答が14件（25%）あり、さらに予算額を知らない講師が28名（50%）もいたことは、教材準備の段階において改善すべき点であろう。

②番組収録前の準備について

講義番組の内容選定（問10）は、講師自身によるものが67件（79.8%）である。しかし、視聴する受講生の性別、年齢構成などを事前知っていた（問11）と答えたのは、全体の18名（21.4%）にすぎず、「なんとなく」（34.5%）と「知らなかった」（44.0%）が多数である。

問11 受講者層について

選択肢	回答数（割合）
知っていた	18 (0.21)
なんとなく	29 (0.35)
知らなかった	37 (0.44)

問12 通常授業と比べた内容の難易度

選択肢	回答数
かなり易しい	12 (0.14)
易しい	37 (0.44)
普通	31 (0.37)
難しい	4 (0.05)
かなり難しい	0 (0.00)

さらに、内容の難易度を通常の授業と比較してどの程度にしたか（問12）については、6割の講師が「かなり易しい」（14.3%）と「易しい」（44.0%）と答えている。受講者のニーズとのズレが生じる恐れがある。

収録に要した期間（問15）が6週間を超えたという回答が21件（25%）あった。さらにテキストの作成についても「かなり負担だった」（38件45%）が非常に多く、テキストの作成に必要な情報を事前提供することが必要である。また、問27「再度、経験を活かして講義番組制作をやってみたいとおもいますか」に対して、「おもわない」が20名（28.2%）もあり、その理由が「相手が見えない。逆に相手が見え、必要ならやってみたい(50代)」、「撮影後のテキスト執筆で年末と正月が消えた(50代)」という意見であり、改善に要する事項であろう。

問15 延べの準備時間

選択肢	回答数
1週間以内	30 (0.36)
3週間	32 (0.39)
6週間	11 (0.13)
10週間以上	10 (0.12)

問20 講義用テキストの作成作業の負担

選択肢	回答数(割合)
かなり負担だった	38 (0.45)
それほどでもない	46 (0.55)

③講座収録の自己評価

出演した講師の8割は、自身の考えどおりに番組に仕上がった（問21）と自己評価している。同時に、講義の展開の速さ（問22）についても「適度であった」（88.2%）と評価しており、「おそかった」（5.3%）と「速かった」（6.6%）であった。しかし、講義の時間長（110分）について、24.7%が「長かった」としていることは、詳細な検討が必要である。

一方、制作準備期間について38.0%が「不足した」と回答している。満足度（問21）において「ならなかった」（18.0%）の理由として、「録画になれていないこともあり、なかなか1回の収録では難しい(40代)」、「前もって制作内容の打ち合わせをもっと多くすべきである(30代)」という意見に代表されるように、制作全体のコーディネートに課題があるといえよう。

問21 講義番組の満足度

選択肢	回答数
なっていた	16 (0.20)
まあまあなっていた	48 (0.62)
ならなかった	14 (0.18)

問24 制作準備期間の長さ

選択肢	回答数
十分あった	13 (0.16)
普通	37 (0.46)
不足した	31 (0.38)

④今後への課題：自由記述より

講師から、今後の課題として、次の4つの設問について自由に記述してもらった。ユニークな意見と代表的な意見を数件、紹介する。

○講義番組の制作でどんなことが負担であったか（問32）。

- ・収録し終わってから、反省することのほうが多い。やはり、事前にスタッフとの十分な打ち合わせが必要。講義レジュメの作成、収録は大きなプレッシャーを感じたが、それよりも、出来上がり心配で、放送後の今も負担に感じる。(50代)
- ・著作権に関する事(30代)
- ・対象(受講者)の予想がつきにくいことです。成人学級の経験がありますが、必ずしも

同じではなさそうです。(60代以上)

○これらの負担を解消するための改善方法など(問33)。

- ・制作スタッフへの技術指導を事前にして欲しい(40代。大学独自収録)
- ・著作者フリーの素材(音楽、世界地図など。もしあればの話ですが)を用意もしくは紹介していただけると助かると思います。(30代)
- ・テキストを早めに作成し、映像展開シナリオを早めに準備してスタッフとのコミュニケーションを形成する。(50代)

○これから講義番組を担当する講師へのアドバイス(問34)。

- ・1年位前には計画し、講義用レジュメを作成し、これをもとに技術スタッフと具体的な調整をしておくこと。収録前に1度、模擬的に講義をし、チェックしてもらうことも大切。(50代)

○事務局への意見(問35)

- ・ともかく現在までにどういうものがよい評価をされ、どういうものが悪いかを示して下さいとよいと思いました。実際に使われている会場の様子なども知ることが出来たら、やりがいが出ることでしょう。(60代以上)
- ・話しっぱなしになっているので、いろいろな面でのフィードバックがほしい。(50代)

6. 制作プロダクションのヒアリング調査

平成14年度の番組のおよそ50%は、制作プロダクションが担当している。これらプロダクションは、送り手の大学・講師と受けての受講者の双方の声を聞いており、今後の番組制作に有益な指摘を受けることができると考えた。ヒアリングには、全国各地で番組制作を担当している4プロダクション(札幌、東京、名古屋、沖縄)から6名が参加した。その参加者にたいして、検討会委員が現行番組制作の改善点、よい番組を作るための積極的な提案についてインタビューし、出された意見について自由討論する形式でおこなった。

(1) 実施時期

平成15年1月15日(水)。

(2) 現行の番組制作の改善点についての意見

①収録前の打ち合わせについて

全てのプロダクションから第一に提示された意見は、講師との事前打ち合わせが不足しており、ときには全く無かったため収録に支障をきたすという問題が多く指摘された。

<関連する意見>

- ・収録当日まで打ち合わせが無く、全体の構成や番組の流れが不明なため番組制作に支障をきたした。
 - ・担当講師との打ち合わせが十分に出来ないまま収録日を迎え、さらに新しい資料が持ち込まれたため、急な対応ができず必要な展示物を放送出来なかった。
- 一方、十分な打ち合わせが取れて良かった例として「十分時間をかけて現場撮影し

たので、担当講師との意志の疎通が出来てよい番組になった」、「担当講師と十分な打ち合わせ時間がとれると講師の意図が番組に活かせる」など、制作プロダクション側の切実な声が聞かれた。

②文字、図などの表示問題

本講座では、文字、図などの提示資料はきわめて大切なもので、受講者に番組を分かりやすく理解させ、内容に興味をわかせる重要な道具立てともいえる。この文字、図表が読めないとなるとそれだけで致命的な欠陥番組になる。この件についても、講師と制作スタッフの間で入念な事前打ち合わせがあればかなり防げるものと思われる。

<関連する意見>

- ・講師が収録当日持ち込んでくるパソコンで作った文字、図表など大変見にくいものがあり、技術的に使えないケースある（テレビ画面で扱うことが可能な文字サイズ、文字数などについての理解が不足しているため）。
 - ・講師が持ち込む資料が画面制作上不適切な場合でも、講師の意図が強い場合は、制作プロダクション側としては否定しにくいケースがある。
- 今回の文字、画面の表示に関連して、黒板や白板を使う番組について興味深い例が出された。コンピュータで画面を作画する時代に、黒板、白板の優位性が示されている。
- ・黒板、白板を使って講義展開する講師は、一般的に番組の流れや構成がしっかりしているケースが多い。
 - ・白板使用講師が作る画面が見やすく分かりやすい。

③著作権の問題

事務局から収録前に著作権処理について説明がなされているが、担当講師まで伝わっていないケースがあり、収録に問題が生じている。一般的に大学等の教員の間では、教育目的ならば著作権処理は必要でないという思い込みがあり、資料を自由に使う場合がある。近年、「知的所有権」についての関心が高まり、著作権処理が重要な課題になっており、講師への直接的な啓蒙と情報提供の措置をとる必要がある。

<関連する意見として>

- ・講師が収録当日古い写真を持参、著作権処理がなされているか不明であった。
- ・収録当日、講師が他局制作のVTRを持ち込んできたが、使用出来ず、後日その部分に該当する内容を別途作り直した。

(3) よい番組を作るための積極的な提案

主に、

- ・講師と十分な打ち合わせが取れると講師の意図を活かした番組が制作できる
- ・番組の展開で山場を作る必要がある（全体的に平板な構成になりがち）
- ・講義口調でなく「話しかけ調」で話してもらいたい

という意見が出された。良い番組を制作するための意見のなかに、積極的な提案として番組全体を取り仕切る「コーディネーター」役がいれば番組制作がうまく流れるのではないかという提案は注目される。担当講師が打ち合わせの必要性・重要性を理解してなかった

などの現状がある。このような場合、コーディネーターの存在意義は大きいと思われる。今後の大きな検討課題であろう。

(4) 大学独自収録番組についての検討

過去の大学独自収録番組より2番組を選択（事務局による）し、事前に視聴した上で意見交換をおこなった。専門的な技術の点で問題は多くあったが、内容的に優れているとの意見で一致していた。講座番組の面白さは、第一に内容の面白さであり、知的な面白さがあれば、制作技術の面で多少の不具合があっても高い評価を得ることができるとの意見は、参加者の多くが賛同した。特徴としてつぎの4点に整理された。

- 1) 伝統に裏付けられた貴重な資料があり、深い歴史的な意味も感じられる
- 2) 大学に眠っている貴重な資料を番組で公開する意味合いが大きかった
- 3) 一般番組では、ほとんど紹介されていない独自の内容であったこと
- 4) 番組制作に大学全体のバックアップがみられ、講師は自然に振舞い楽しく視聴できる内容となっている。

今後の大学独自収録番組の選定をする際の指針の一つということがいえよう。一方、独自収録であることで技術面での改善点が明確になっており、以降の大学独自収録番組制作の参考資料として有益であろう。ユニークな講義番組や受講者から評価の高い番組については、新規に参加する大学と講師に向けに、制作時の参考番組として提供することも効果であろう。

以下は、視聴検討した番組について制作プロダクション側から出された技術上の意見を紹介しておきたい。

- ・文字が白地に重なって見にくい / 画面の文字サイズがバラバラで見にくい、統一した方がよい / 照明の当て方が悪く、不必要な反射があり見にくい / 音声聞こえない部分があり、聞いているうちにストレスを感じる

7. 今後の課題

番組評価検討会は、年度後半に組織し、調査の立案と実施、分析をおこなったため、当初の趣旨に十分にこたえたとはいえない。今後、エル・ネット「オープンカレッジ」では、大学独自制作の広まりとインターネットの活用などのさまざまな形態の講座開発が進むことが予想される。以下の調査方法の課題のほか、番組（講座）の定常的な評価調査とその体制確立、さらにその活用に向けた組織化が必要であろう。

○評価調査方法の課題

①講座の満足度などとの比較

モデル事業地区でおこなっている調査票と番組評価調査を事前に調整し、講座の満足度や参加意識が番組の評価にどのような関係があるのかを調査する。

②受講者アンケート調査を拡大

モデル事業地区以外での受講者層の意見を収集する。

③受講者ヒアリング調査の都市部での実施

大都市部でエル・ネット「オープンカレッジ」を受講する学習者層を想定したヒアリングの実施。

④受講者の生涯学習観の調査

生涯学習に対するニーズは、世代はもちろん生活圏などで相違を見せられると思われる。番組（講座）評価、特に内容とその専門性の高さに対する評価結果との関連を調べる。

⑤講師へのヒアリング調査

ヒアリング調査は、自由な意見を聞き取ることができ、質的な評価を受ける方法として有効であり、講師へのアンケート調査と並行して実施する。

⑥調査結果の講師、大学へのフィードバックシステム

○エル・ネット「オープンカレッジ」事業への提案

①番組基準作りを行う。

内容とその専門性、期待される受講者層などを制作者（講師）がチェックすることができ、より妥当な番組構成や演出について検討するようなもの。また、テキスト制作に関する指針も盛り込む。同時に講師の所属する大学へ、講師の制作負担の理解と具体的な対応を促す。

②映像制作マニュアルの作成

文字や図表の大きさから、照明の諸注意、著作権処理にいたるまで、これまでの番組制作の経験から参考となる事例をまとめるなどして、より効率的、効果的な番組制作がすすめられるようにする。

③サンプルビデオ作成（特に独自収録大学に対して配布）

④「オープンカレッジ」番組制作コーディネーター

番組制作だけではなく、「オープンカレッジ」講座の企画と制作、評価までの一連の流れを理解し、講師と大学、制作プロダクションそして会場・受講者との情報交換を促す役割が重要である。そのための指針等を作り、具体的な働きかけをおこなう。

⑤講座ごとに受講者層の把握する手段の構築

受講者は、一般教養的内容だけではなく、大学授業のように体系化された内容と専門性を求めている場合がある。

2. 受講者モニター調査について

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、教育情報衛星通信ネットワーク（エル・ネット）の公開講座「オープンカレッジ」について、全国の一般市民に講座を受講してもらった上で、生涯学習や「オープンカレッジ」に対する意識やニーズ調査を行うことを目的として行った。

(2) 調査方法

19歳以上のネットモニターから対象者を抽出し、以下の方法で調査を行った。

- 1) 1,482の公共施設の対象施設（事前提示リスト：講座実施施設445、講座非実施施設1,037）から、都道府県別に地域を指定し、ネットモニターに対してリストを提示。ネットモニターに対して、協力依頼を行い、訪問可能な施設を選択してもらい、事前登録。
- 2) 前登録状況を確認し、対象施設リストと照合して、モニター協力者を抽出。
- 3) モニター協力者への施設割当に際しては、事前提示リストのうち、「オープンカレッジ実施」が確認されている約445（講座実施施設）を優先的に割当。
（講座実施施設364（728名）、講座非実施施設572（572名））
- 4) モニター協力者に対して、訪問してもらおう施設名を告知し、モニター協力者は、実際の講座開催日時に公共施設を訪問。
- 5) モニター協力者は公共施設訪問を終えたのち、Webアンケートに回答。（モニターは、1人最大3施設までを訪問）

(3) 調査実施時期

2003年1月16日～2003年3月4日

(4) 回収数

総回収数 827

事前情報に基づく詳細内訳は、以下のとおりである。

	対象施設	訪問調査実施数				回収状況	
		本調査1次対象者	~2/9訪問希望者2次募集追加	訪問調査実施施設数(計)		最終回収数	
講座実施施設	445	応募あり施設数	323	41	364	a 回収施設数	280
		(最大訪問人数)	(631)	(97)	(728)	b(重複を含む回答者数)	(346)
						aのうち実際に講座を実施していた施設数	104
						(bのうち実際に講座を実施していた施設での回答者数)	(119)
						aのうち実際に講座を実施していなかった施設数	176
						(bのうち実際に講座を実施していなかった施設での回答者数)	(227)
						bのうちビデオ受講者数	3
講座非実施施設	1,037	応募あり施設数	572	-	572	c 回収施設数	459
		(最大訪問人数)	(572)	-	(572)	d(重複を含む回答者数)	(481)
						cのうち実際に講座を実施していた施設数	114
						(dのうち実際に講座を実施していた施設での回答者数)	(118)
						cのうち実際に講座を実施していなかった施設数	345
						(dのうち実際に講座を実施していなかった施設での回答者数)	(363)
						dのうちビデオ受講数	6
計	1,482	応募あり施設数	895	-	936	回収施設数 計 (a+c)	739
		(最大訪問人数)	(1,203)	-	(1,300)	回収回答数(含重複)計 (b+d)	(827)
					うち実際に講座を実施していた施設数	218	
					(実際に講座を実施していた施設での回答者数)	(237)	
					うち実際に講座を実施していなかった施設数	521	
					(実際に講座を実施していなかった施設での回答者数)	(590)	
					b+dのうちビデオ受講数	9	
					実施講座受講数 計	246	

最終有効回答数 : 827

最終有効講座受講数 : 246 (ビデオ含む)

(5) 回答者の属性

今回の回答者のプロフィールは以下のとおりである。総回収数は827だが、1人のモニターが複数施設を訪問しているため、回答人数は670名となる。

インターネットユーザーが回答者のため、日常からインターネットの利用に慣れている人が回答者の大半を占め、ほぼ半数が平日2時間以上インターネットを利用している。

性別区分

	度数	構成比(%)
男性	342	51.0
女性	328	49.0
合計	670	100.0

年代区分

	度数	構成比(%)
10代	7	1.0
20代	142	21.2
30代	266	39.7
40代	177	26.4
50代	51	7.6
60歳以上	27	4.0
合計	670	100.0

性別×年代

	度数	構成比(%)
男性・10代	3	0.4
・20代	78	11.6
・30代	107	16.0
・40代	104	15.5
・50代	28	4.2
・60歳以上	22	3.3
女性・10代	4	0.6
・20代	64	9.6
・30代	159	23.7
・40代	73	10.9
・50代	23	3.4
・60歳以上	5	0.7
合計	670	100.0

職業分類

	度数	構成比(%)
会社員・役員	240	35.8
自営業	52	7.8
専門職	17	2.5
公務員	36	5.4
学生	36	5.4
専業主婦	156	23.3
パート・アルバイト	82	12.2
無職	28	4.2
その他	23	3.4
合計	670	100.0

平日にインターネットを利用する時間

	度数	構成比(%)
1時間未満	137	20.4
1時間から2時間未満	223	33.3
2時間から3時間未満	116	17.3
3時間から5時間未満	107	16.0
5時間以上	78	11.6
無回答	5	0.7
平日は利用しない	4	0.6
合計	670	100.0

都道府県(訪問施設所在地)

		度数	構成比 (%)
北海道		21	2.5
東北		81	9.8
	青森	11	1.3
	岩手	17	2.1
	宮城	8	1.0
	秋田	16	1.9
	山形	11	1.3
	福島	18	2.2
関東		148	17.9
	茨城	26	3.1
	栃木	17	2.1
	群馬	29	3.5
	埼玉	25	3.0
	千葉	22	2.7
	東京	13	1.6
	神奈川	16	1.9
北陸		67	8.1
	新潟	24	2.9
	富山	14	1.7
	石川	16	1.9
	福井	13	1.6
中部		91	11.0
	山梨	9	1.1
	長野	22	2.7
	岐阜	10	1.2
	静岡	20	2.4
	愛知	30	3.6
近畿		141	17.0
	三重	19	2.3
	滋賀	33	4.0
	京都	24	2.9
	大阪	19	2.3
	兵庫	23	2.8
	奈良	8	1.0
	和歌山	15	1.8
中国山陰		103	12.5
	鳥取	9	1.1
	島根	23	2.8
	岡山	16	1.9
	広島	32	3.9
	山口	23	2.8
四国		50	6.0
	徳島	9	1.1
	香川	20	2.4
	愛媛	15	1.8
	高知	6	0.7
九州・沖縄		125	15.1
	福岡	31	3.7
	佐賀	12	1.5
	長崎	10	1.2
	熊本	13	1.6
	大分	14	1.7
	宮崎	10	1.2
	鹿児島	21	2.5
	沖縄	14	1.7
合計		827	100.0

2. 調査結果

(1) 生涯学習活動への関心

① 生涯学習への関心

生涯学習を行うことに関しては、

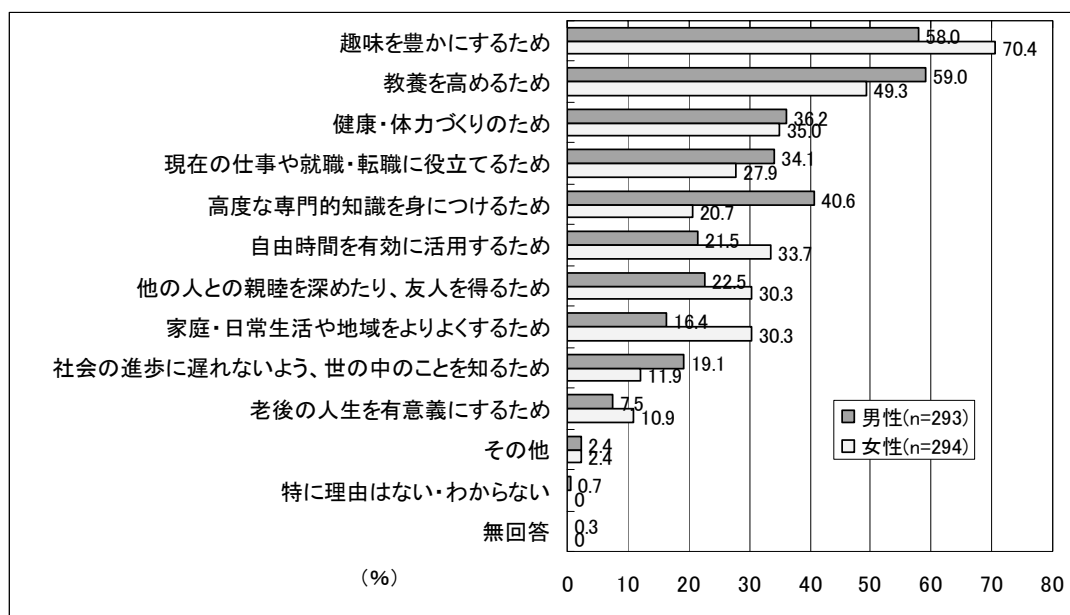
- ・「かなり関心がある」：30.3%（203人）
- ・「まあ関心がある」：60.1%（403人）で、9割が関心があると回答。

性別にみると、「かなり関心がある」

- ・男性：26.9%（92人）
- ・女性：33.8%（111人）で、女性の方が強い関心を持っている。

② 活動理由

男女ともに、「趣味を豊かにするため」「教養を高めるため」が多くなっている。また、男性は女性より「高度な専門的知識を身につけるため」「社会の進歩に遅れないよう、世の中のことを知るため」が多く、女性は男性よりも「家庭・日常生活や地域をよりよくするため」「自由時間を有効に活用するため」「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」等が多くなっている。



③ 今後の意向

今後の生涯学習活動意向は、

- ・「参加してみたいと思う」：84.5%（566人）
- ・「してみたいとは思わない」：1.8%（12人）である。

(2) 訪問施設について

① 今回調査以前のオープンカレッジ認知状況

今回の調査以前に、オープンカレッジを

- ・「知っていた」 : 16.9% (113人)
- ・「知らなかった」 : 83.1% (557人)

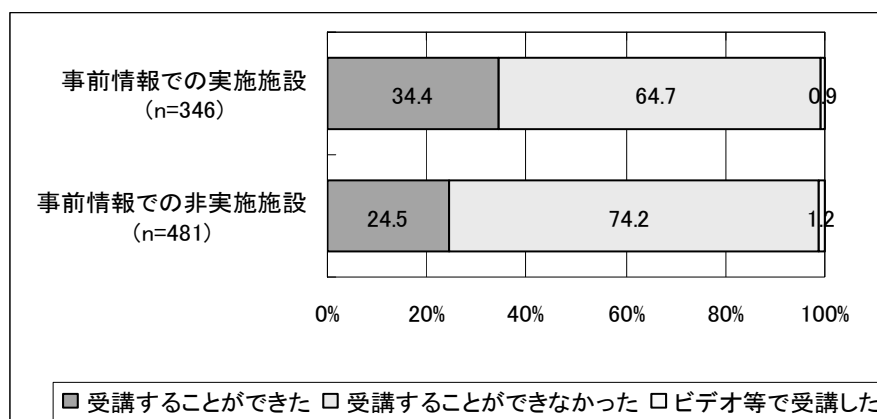
② 今回調査以前の受講経験

実際に受講した経験があるという人は1.2% (8人)にとどまっている。

③ 訪問施設での受講可否

訪問調査以前の段階で把握されていた、施設での講座の実施有無別に見た場合、事前情報での「実施施設」での受講可能率は35.3%、「非実施施設」での受講可能率は25.7%で、実施されているという事前情報のあった施設でも、受講可との回答は4割弱にとどまった。

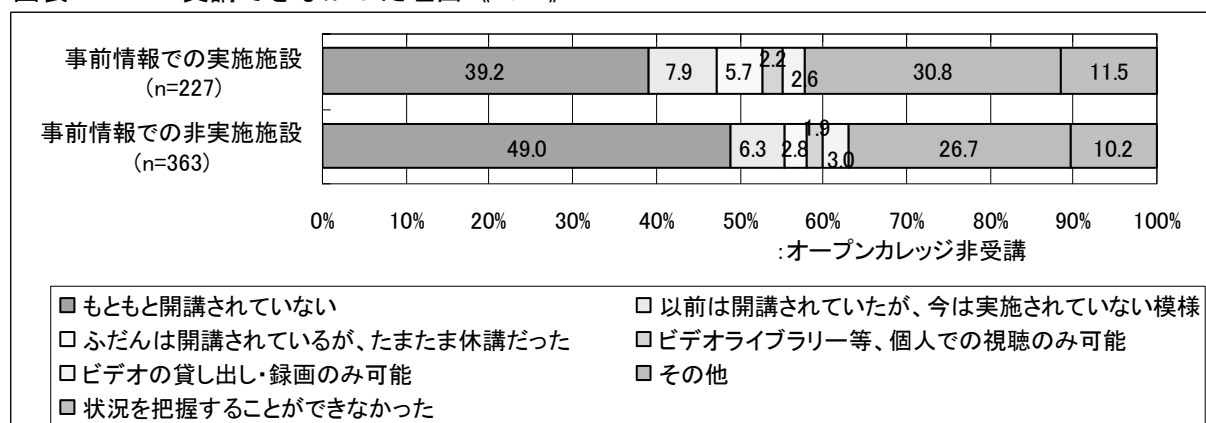
図表4-2-5-2. 事前情報での実施有無別 訪問施設での受講可否《Q8》



④ 受講施設の状況 (受講できなかった理由)

その他の理由をみると、「月に1度しか受講できない」、「子ども向けのものしか放送していない」、「担当職員が不在で操作できない」、「施設主催の講座が優先するので、部屋が空いていないと不可」など、受信設備はあるものの、希望者が訪問すればいつでも受講できる環境は整っていない様子が見られる。

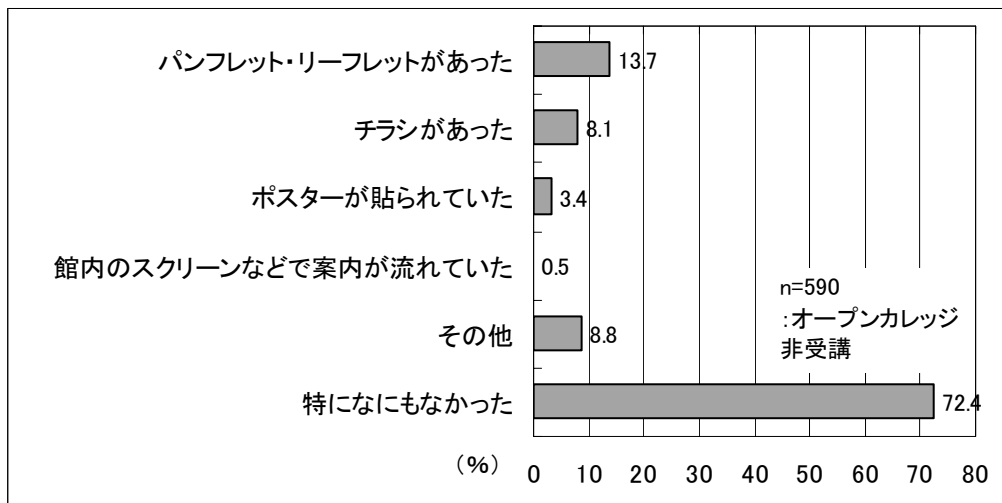
図表4-2-6-1. 受講できなかった理由《QA》



⑤ 案内・説明資料の設置

オープンカレッジを受講できなかった施設で、何らかの案内・説明資料が置いてあったことを把握できた比率は27.6%であった。

図表4-2-6-5. 案内・説明資料の設置（複数回答）《QC》

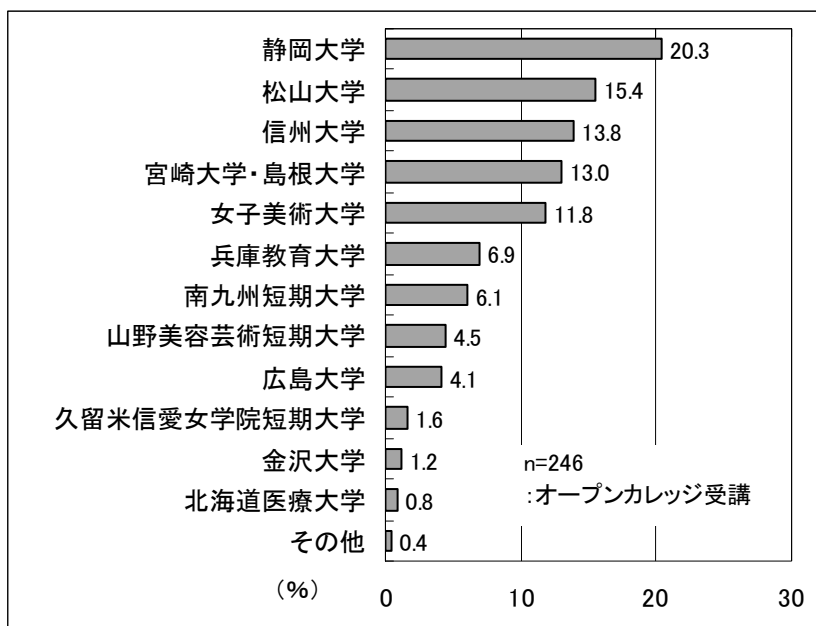


(3) オープンカレッジ講座内容評価

① 受講した講座

今回講座を受講できた施設での受講講座は、静岡大学「やきものの考古学」がもっとも多く、次いで松山大学「NPOとまちづくり」、信州大学「ところかわれば生活かわる」となっている。

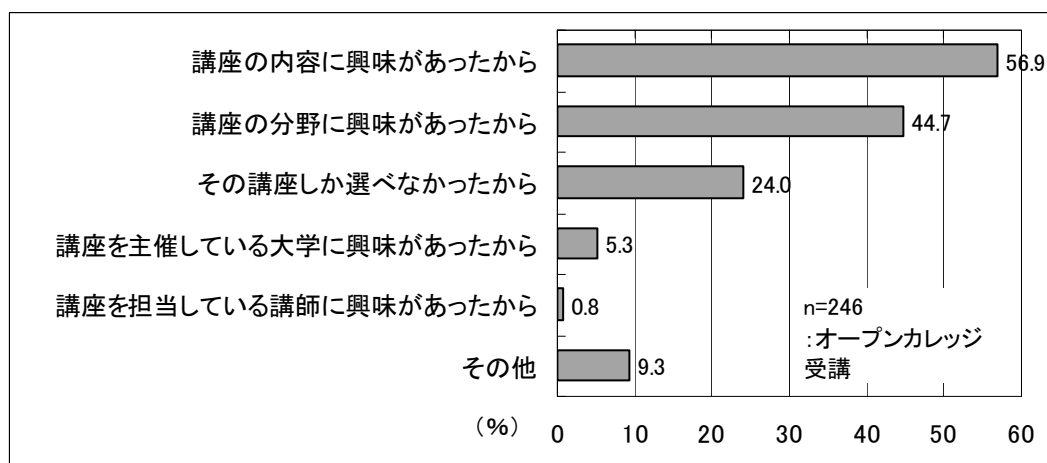
図表4-3-5-1. 講座担当大学《Q9》



② 受講講座の選択理由

受講した講座を選択した理由は、「講座のないように興味があったから」(56.9%)が最も多く、次いで「講座の分野に興味があったから」(44.7%)となっている。

図表4-3-6-1. 受講講座の選択理由（複数回答）《Q14》



③ 項目別講座評価

講座全体は、特に『職員対応は親切だった』は、58.5%が「あてはまる」と回答。

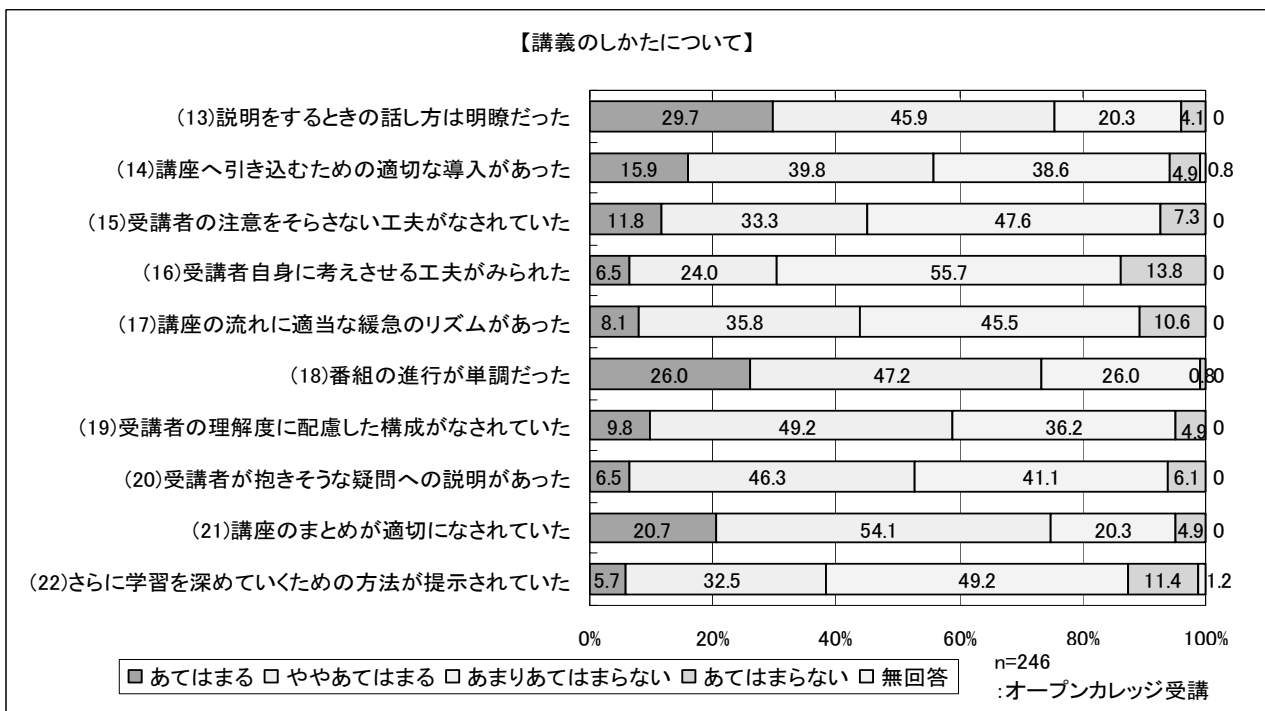
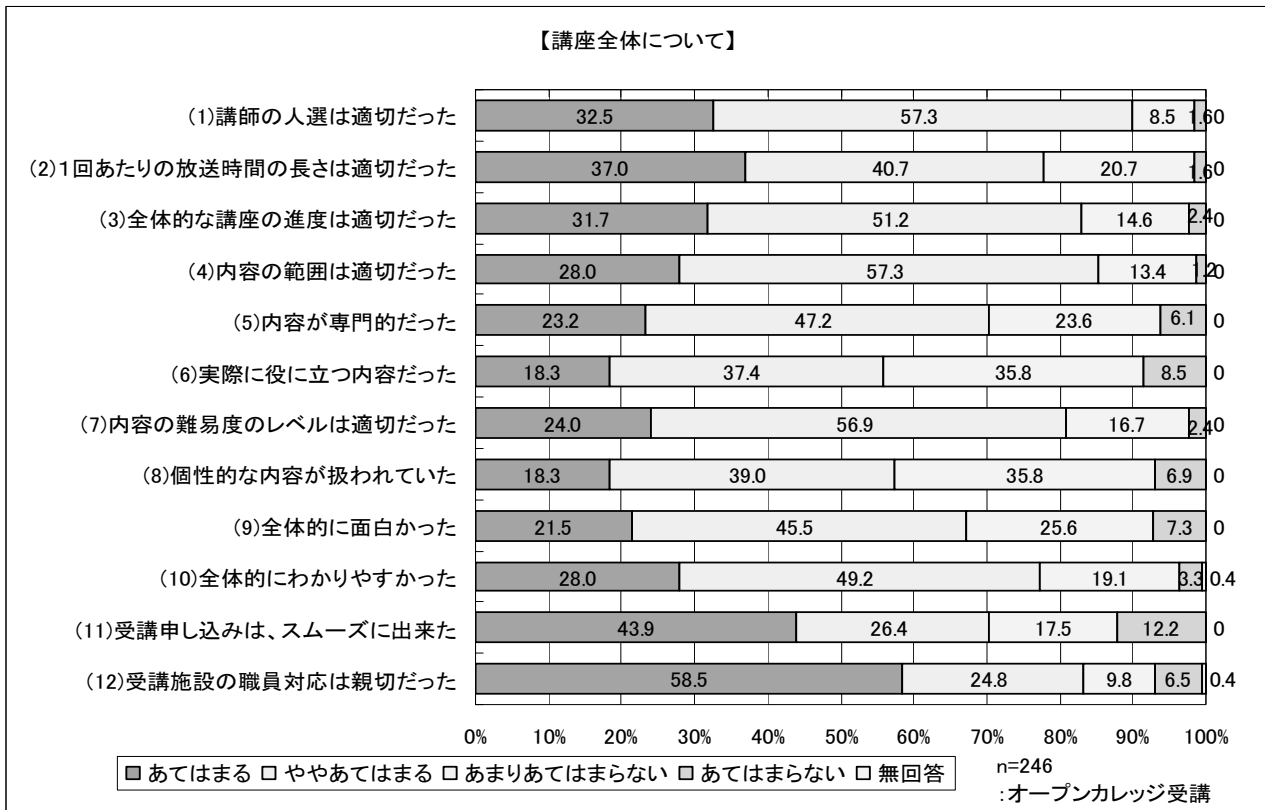
その一方で、『実際に役に立つ内容』『個性的』の2項目については、「あてはまらない」とする回答が多くなった。

講義の仕方は、『受講者に考えさせる工夫』、『学習を深めていくための方法提示』『講座での緩急のリズム』『注意をそらさない工夫』などで、マイナス評価が多くなっている。

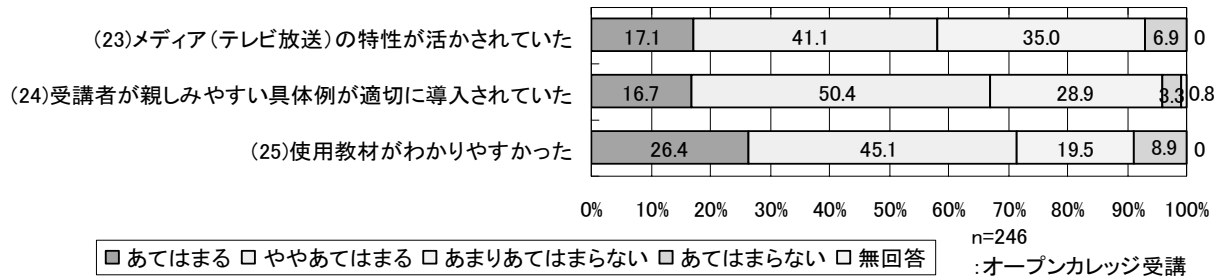
メディアの活用に関しては、概ねプラスの評価が多くなった。

テキストに関しても、いずれもプラスの評価がマイナス評価を上回っている。

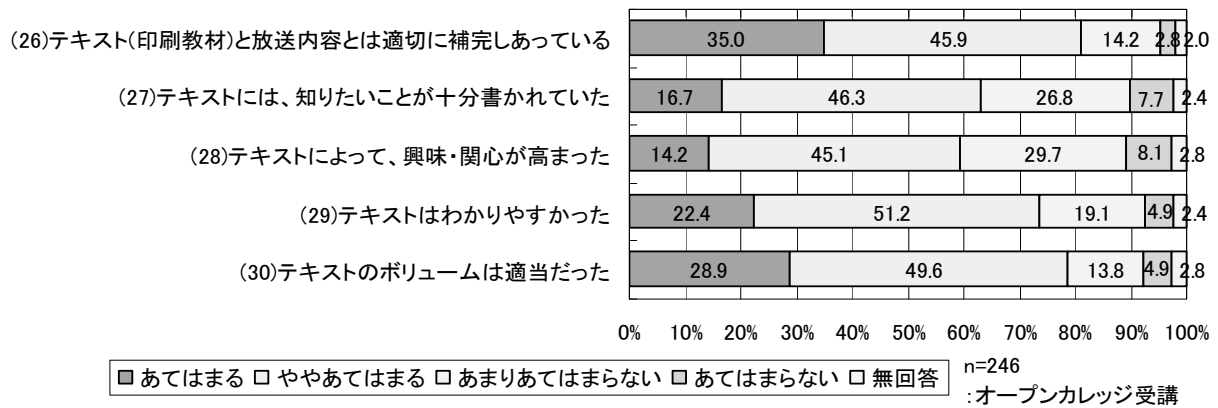
図表4-3-13-1. 項目別講座評価《Q20》



【メディアの活用について】



【テキストについて】



④ 総合評価

総合的な講座への評価としては、

- ・「非常によい」 : 13.4% (33人)
- ・「まあよい」 : 66.3% (165人) で、プラスの評価が8割を占めた。

(4) 今後のあり方

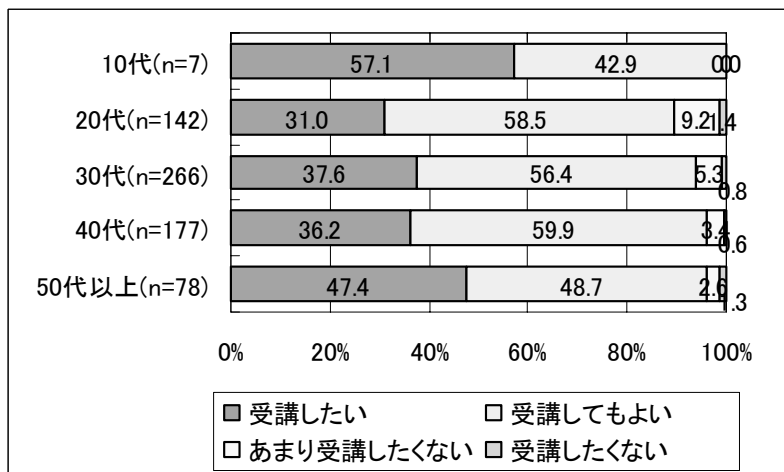
① 今後の受講意向

今後のオープンカレッジの受講意向については、

- ・「受講したい」 : 37.2%
- ・「受講してもよい」 : 56.7%となっており、9割が受講意向ありと回答。

男女差はあまりみられません。年代別にみた場合、高齢層の方が、受講意向が高い傾向がみられる。

図表4-4-1-2. 年代別 今後の受講意向《Q27》

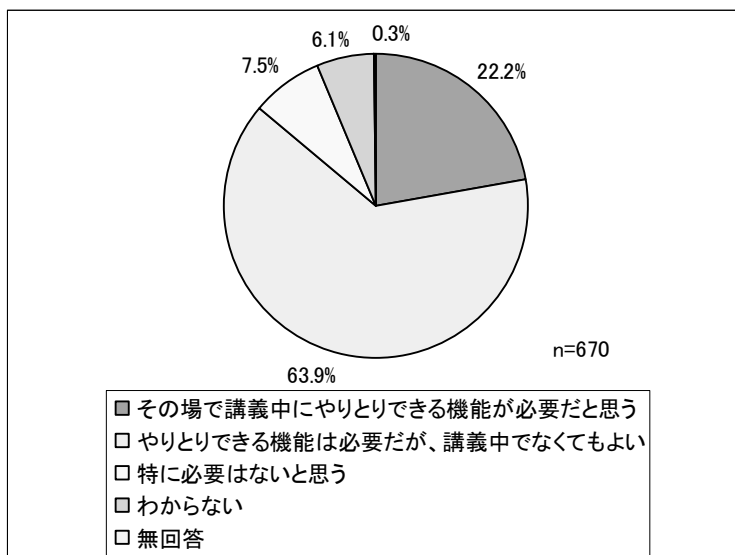


② 双方向機能について

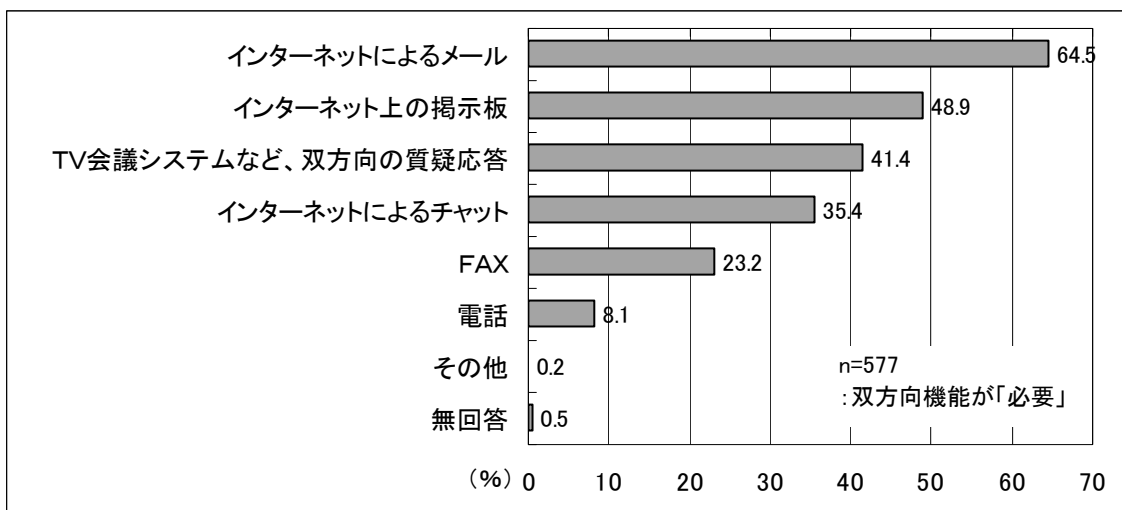
双方向性機能に関しては、「必要だと思う」が計86.1%にのぼったが、「その場で講義中にやりとりできる機能が必要だと思う」が22.2%に対して、「やりとりできる機能は必要だが、講義中でなくてもよい」が63.9%となっており、即時性を求める人はあまり多くはないようである。

双方向機能を必要と感じる場合の望ましい方式としては、「メール」が64.5%で最も多く、「インターネット上の掲示板」が48.9%、「TV会議システムなど、双方向の質疑応答」が41.4%、「インターネットによるチャット」が35.4%と続く。

図表4-4-5-1. 双方向機能の必要性《Q31(1)》

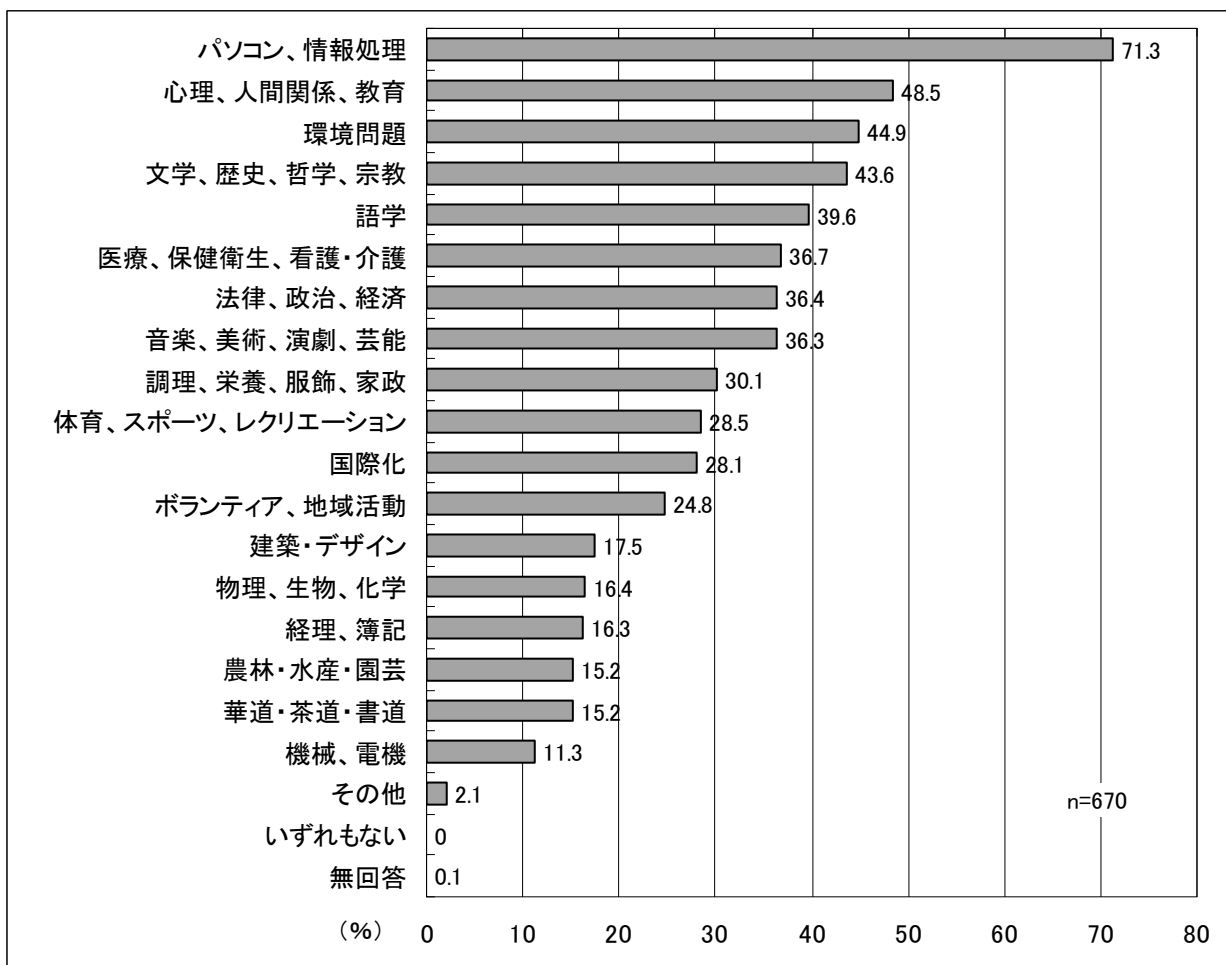


図表4-4-5-2. あればよいと思う方式（複数回答）《Q31(2)》



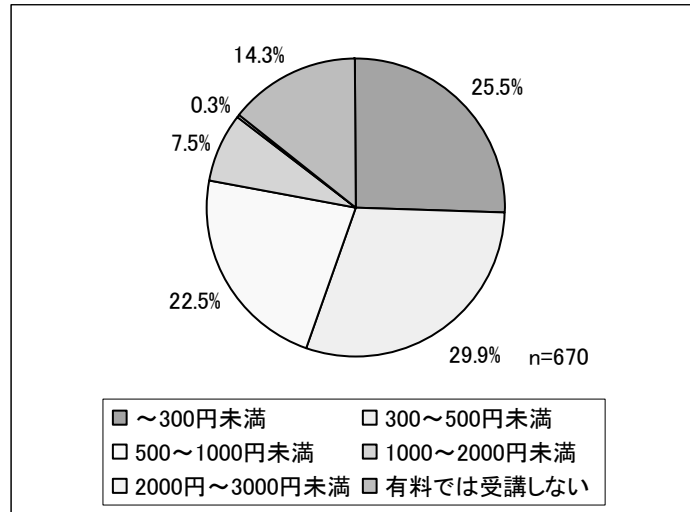
③ 受講してみたいと思う講座分野

図表4-4-7-3. 受講してみたいと思う講座【分野】（複数回答）《Q33(2)》



④ 講座の受講料

図表4-4-11-1. 講座の受講料について《Q37》

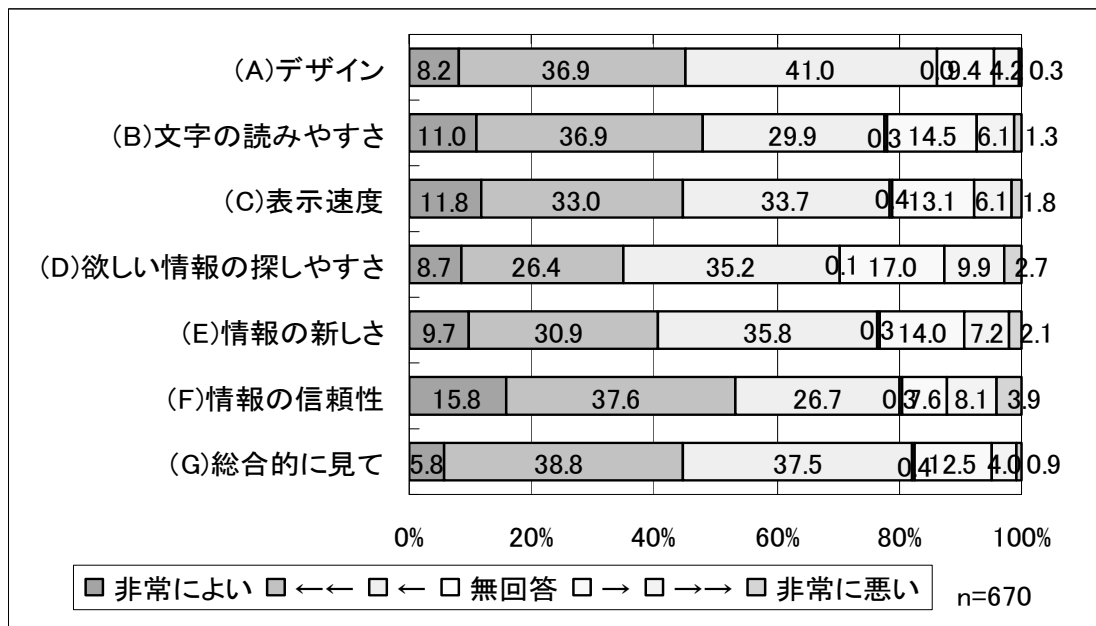


(5) オープンカレッジサイト評価

① サイト構成評価

オープンカレッジのホームページについて、「デザイン」「文字の読みやすさ」等の各種項目と「総合」の7項目で評価を求めた。概ね「悪い」よりも「良い」方向への評価となり、その中でも最も評価が高かったのは「情報の信頼性」であった。逆に、比較的评价が低くなったのは「欲しい情報の探しやすさ」で、マイナス評価が29.6%を占めた。

図表4-5-1-1. サイト構成評価《Q40(1)》



3. 講座コンテンツ作成について

平成15年3月に、エル・ネットのデータ送信機能を利用したコンテンツ配信システムの運用を始めた。このシステムは、エル・ネット用デジタルCSチューナー（IRD）に接続したデータ受信パソコンに対し、受信局からのリクエストに応じたさまざまなコンテンツを配信するものである。これによって、それぞれの受信施設は、システムに蓄積されているコンテンツを必要に応じて取得することができるようになった。

エル・ネット「オープンカレッジ」では、このシステムに対応して、今年度新規収録講座の中から13講義を抽出し、パソコン画面で受講できるように、1)「MPEGムービー」、2)「PDF＋ムービー」、3)「PDF＋音声」の3つの仕様でモジュール化し、配信システムに登録した。講座の抽出に当たっては、以下の点を基本的要件とした。

●モジュール化コンテンツ選択の基本的要件

- ・モジュール化に必要な章立てが明確である。
- ・モジュール化についての著作権者の了解がある。
- ・モジュール化に際して、コンテンツに肖像権・著作権等権利処理に問題がない。

以上の要件より、平成14年度新規収録全講座より、18講義を抽出した。

●コンテンツ制作の基本的要件

- 1) MPEGムービー化対象コンテンツ
＝重要なテキスト・図版資料等がほとんどなく、講師の話と豊富な資料映像が中心である。
- 2) 動画付きPDF化対象コンテンツ
＝テキスト・図版資料があり、講師の話と資料映像が豊富にある。
- 3) 音声付きPDF化対象コンテンツ
＝テキスト・図版資料があり、講師の話が中心である。

以上の要件より、18講義のコンテンツ内容を検討の結果、13講義を制作対象とした(表・192頁参照)。以下は、コンテンツ制作の基本的な考え方(仕様設計)である。

●モジュール化の仕様

コンテンツ内容・章立てに応じて、モジュール化する。1モジュールの容量は、50～200MB（動画5～20分）を基準とし、最大400MB（動画40分）とした。

1) 「MPEGムービー」の仕様

- ・MPEG1 / 1411200bps（固定ビットレート）
- ・フレームサイズ：352×240
- ・フレーム縦横比：4：3
- ・フレームレート：29.97fps
- ・音声サンプリングレート：44100Hz
- ・16bit / ステレオ

2) 「PDF+ムービー」の仕様 / .mov

- ・クイックタイム / Sorenson Video 2
- ・15fps / 224×168 / 24bt
- ・音声 11kHz / 8bit / mono

3) 「PDF+音声」の仕様 / .mov

- ・クイックタイム
- ・11kHz / 8bit / mono

●再生・表示必要ソフトウェア

1) 「MPEGムービー」：Microsoft Windows Media Player 6.0.4以上

2) 「PDF+ムービー」：Adobe Acrobat Reader 4以上、
およびApple Quick Time 5以上

3) 「PDF+音声」：Adobe Acrobat Reader 4以上、
およびApple Quick Time 5以上

なお、上記ソフトのうち、2)、3)の対象講座モジュールには、受信局の再生環境を考慮して、Adobe Acrobat Reader 5およびApple Quick Time 5をバンドルする。

（なお、Quick Timeは、PDF表示のバックグラウンドでムービーまたは音声を再生するエンジンとして必要。）

学校名	初回 放送日	回数	講座名	講義名	コンテンツ種類	著作権	ファイル 数	ファイル容量				再生時間
								その1	約	その2	約	
1 千葉大学	2002/12/13	1/1	トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう	トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう	MPEGムービー	AB	3	その1	約	138	MB	24分15秒
								その2	約	138	MB	24分22秒
								その3	約	90	MB	15分53秒
2 お茶ノ水女子大	2002/11/29	1/1	天才の栄光と挫折	天才の栄光と挫折	MPEGムービー	A	4	その1	約	137	MB	24分19秒
								その2	約	148	MB	26分17秒
								その3	約	139	MB	24分35秒
								その4	約	152	MB	27分00秒
3 新潟大学	2002/10/25	1/3	腎臓病Q&A	腎疾患の基礎研究のQ&A	MPEGムービー	AB	3	その1	約	164	MB	29分00秒
								その2	約	187	MB	32分55秒
								その3	約	190	MB	35分47秒
								その4	約	159	MB	29分56秒
4 奈良教育大学	2003/1/25	1/1	“やまと”から知的資源の解放	テレビゲーム・マンガ・アニメーションへの子どもと親の関わり方	MPEGムービー	AB	4	その1	約	140	MB	26分18秒
								その2	約	73	MB	12分44秒
								その3	約	170	MB	33分25秒
								その4	約	93.7	MB	合計 72分50秒
5 長崎大学	2002/10/5	1/3	まちづくりと大学生涯学習	地域の活性化とその担い手育成のまちづくり	PDF+音声	AB	1	その1	約	163	MB	合計 28分00秒
								その2	約	91.4	MB	合計 15分30秒
								その3	約	158	MB	合計 28分00秒
6 八戸大学	2002/10/22	1/1	「文学」と「ことば」の世界	サン・テグジュベリと宮沢賢治	PDF+映像	AB	3	その1	約	121	MB	21分20秒
								その2	約	59	MB	10分32秒
								その3	約	122	MB	21分31秒
								その4	約	109	MB	19分15秒
7 常磐大学	2002/12/10	2/3	ポランティアとミュージアム	水族館のヒミツII	MPEGムービー	AB	4	その1	約	106	MB	合計 19分10秒
								その2	約	135	MB	合計 23分00秒
								その3	約	102	MB	合計 19分00秒
								その4	約	107	MB	合計 19分00秒
8 淑徳大学	2002/10/17	1/3	「源氏物語」への誘い	光源氏の誕生と形代への愛	PDF+映像	AB	4	その1	約	119	MB	21分01秒
								その2	約	159	MB	29分58秒
								その3	約	196	MB	41分29秒
								その4	約	59	MB	10分20秒
9 早稲田大学	2002/10/3	1/2	エジプト考古学入門	エジプト史概観	MPEGムービー	AB	4	その1	約	61.7	MB	合計 11分10秒
								その2	約	85.7	MB	合計 15分00秒
								その3	約	158	MB	合計 29分00秒
								その4	約	126	MB	22分14秒
10 平安女学院大学	2002/10/11	1/1	ポランティア活動と社会参加	ポランティア活動と生涯学習	PDF+映像	AB	3	その1	約	111	MB	19分33秒
								その2	約	105	MB	18分31秒
								その3	約	55	MB	9分33秒
								その4	約	94	MB	16分30秒
11 鳥取環境大学	2002/12/12	2/3	コンピュータと通信	携帯電話でなぜ話ができる	MPEGムービー	AB	4	その1	約	113	MB	19分52秒
								その2	約	128	MB	22分34秒
								その3	約	111	MB	19分45秒
								その4	約	123	MB	21分56秒
12 武蔵大学	2002/12/18	1/1	武蔵大学衛星通信利用による公開講座-マクロ経済と金融-	黒坂ゼミ生と考えるマクロ経済と金融	MPEGムービー	AB	3	その1	約	71	MB	合計 18分36秒
								その2	約	74.6	MB	合計 20分50秒
								その3	約	25.2	MB	合計 37分56秒
								その4	約	113	MB	合計 18分36秒
13 徳島大学	2003/1/16	1/3	ホノルルマラソンをインターネット中継しよう！	暮らしをつくるパソコン・インターネット	MPEGムービー	AB	5	その1	約	71	MB	合計 18分36秒
								その2	約	74.6	MB	合計 20分50秒
								その3	約	25.2	MB	合計 37分56秒
								その4	約	113	MB	合計 18分36秒

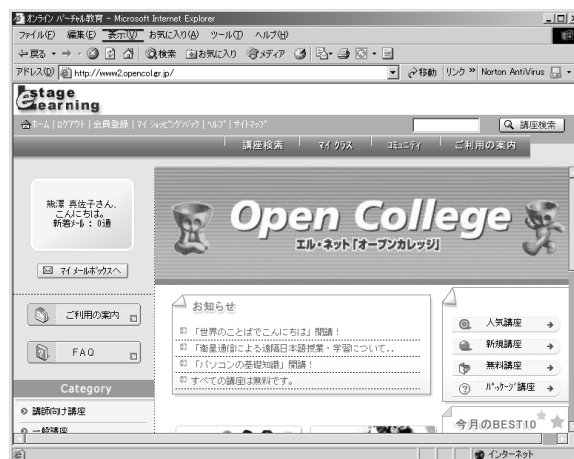
4. eラーニングの取り組みについて

エル・ネット「オープンカレッジ」の今年度の新たな試みとしてeラーニングサイト「eラーニングステージ (http://www2.opencol.gr.jp)」を平成14年10月より試験的に運用開始した。オープンカレッジの公開講座116講座の内、10講義について事前/事後の学習を支援するための学習コンテンツを掲載し、Q&Aや課題、学習チェックシートにより受講者本人が講座の理解度を確認できる仕組みを提供している。ここでは実際の運営方法や利用状況を含めて、「eラーニングステージ」の試験運用結果を報告する。

1. eラーニングステージの役割

「eラーニングステージ」は、エル・ネット「オープンカレッジ」とeラーニングを融合した新しいサービスであり、従来からの衛星放送番組「オープンカレッジ」を支援し、受講者により充実した生涯教育の機会を提供することを目的としてスタートした。

「eラーニングステージ」では、衛星放送番組による公開講座の案内や、事前学習や復習、講師への質問、学習者同士の相互交流などをサポートし、受講者の学習ニーズに対応することを目的としている。



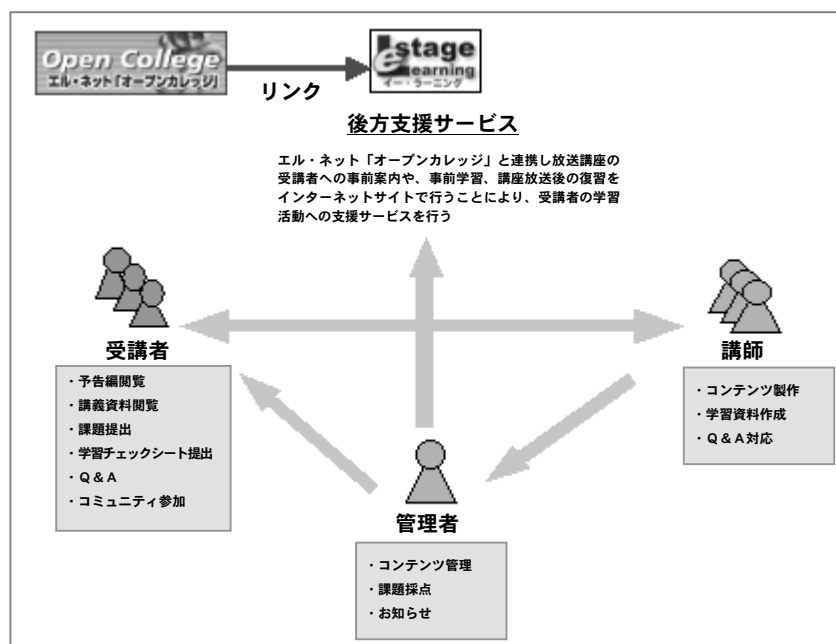
2. 概要

平成14年12月から平成15年3月までの公開講座の中から10講義を対象として、下記の内容を提供した。講座予告編は教材作成ソフトウェアを利用し、講師自身が製作できるものとした。作成した資料の上に音声と手書き文字を同時並行でレコーディングし、記録した内容を時系列に再生できるので、講座内容がわかりやすく紹介できる。

< eラーニングステージの講座内容 >

- ・ 講座の予告編
- ・ 参考資料の紹介
- ・ 課題（記述式）
- ・ 学習チェックシート（選択式）
- ・ 放送日程のご案内

上記学習コンテンツのほかに、講師への質問や、学習者同士の相互交流のためのサークル運営、受講者同士のメールが利用できる。公開講座の放送予定日の1か月前を目安としてeラーニングステージに講座を開講し、放送内容の確認から事前学習、復習などに活用できる。



運用システムは、Webサーバーのほかにeラーニングの専用サーバーを立て、その中で受講者管理、教材管理、学習管理及びコンテンツ配信を行うものである。受講者側のパソコンの必要環境は下記のとおりである。

<受講者側の必要環境>

CPU	Pentium-166MHz以上 (Pentium II 以上推奨)
メインメモリ	64MB以上 (128MB以上推奨)
空きHDD容量	500MB以上
OS	Windows98SE/Me/2000/XP
WEBブラウザ	IE 5.5SP2以上 (IE 6.0以上推奨)
モニタ解像度	1024×768×16bit以上
ビデオメモリ	8MB以上
サウンドカード	サウンドブラスタ互換の全二重サウンドカード
その他	ヘッドセット or スピーカー
通信回線	ISDN/ADSL/128kbps以上の専用線

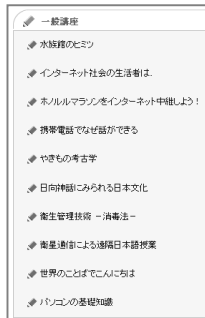
3. サイト運営方法

サイトの立ち上げ準備から本稼動までは下記のような流れで作業を進めた。「オープンカレッジ」の放送予定日の約1か月前までに「eラーニングステージ」での講座開講を目安として作業を進めた。コンテンツ制作については、講義制作ツールを使用し、講師自身で制作する場合と、講義素材を運営管理担当者に提供し、運営管理者側で制作する場合の2通りで行った。

<運営準備の流れ>

- | | |
|-------------------------|------------|
| ① 参加要請のアンケートを送付 | 平成14年 8 月末 |
| ② 参加希望の10講義を対象講座として決定 | 平成14年 9 月 |
| ③ サンプルコンテンツの製作 | 〃 |
| ④ サイトに基本情報を登録後、仮オープン | 〃 |
| ⑤ 詳細内容を参加者へ通知 | 〃 |
| ⑥ 製作方法についてのアンケートを参加者に発送 | 〃 |
| ⑦ 各講師のコンテンツ製作 | 随時 |
| ⑧ 「eラーニングステージ」本格始動 | 平成14年10月 |
| ⑨ 準備完了講座から順次開講 | 随時 |
| ⑩ 全10講義開講 | 平成15年 1 月 |

開講講座リスト



講座選択画面



講義リスト



予告編画面



学習チェックシート画面



成績表



受講者は登録したIDとパスワードでログインし、受講したい講座に受講申込みを行い、予告編や講義資料をもとに学習を進める。理解度をチェックするため学習チェックシート（簡単な択一形式の問題）や記述式の課題提出が可能である。学習チェックシートはシステム側で自動採点される。記述式課題については、講師もしくは管理担当者が模範解答をもとに採点する。そのほか、講師への質疑応答や参加者同士で特定のテーマでサークル活動も可能である。

4. 受講状況

平成15年2月末時点での受講登録者数は250名であり、内109名（全講座合計の修了者数）が学習を修了している。講座あたりの平均受講者数は36.3名である。

5. 今後の課題

本年度は試験運用として「オープンカレッジ」の公開講座116講義の1割に満たない10講義を対象に半年間運営してきたが、eラーニングへの取り組みに対して確実な手ごたえを得ることができた。受講者からの質問で、「受講したい講座がeラーニングステージにない」という指摘があったように、時間や空間の制限を越えてマイペースで受講できるeラーニングは、さまざまな環境にある個人に対応した生涯学習の実現には有効である。

今後の課題としては、第一に対象講座の拡大があげられる。また、現在のコンテンツは事前/事後学習が中心であるが、受講施設で聴講できない受講希望者向け、あるいは再度受講したい受講者向けに本講義内容をサイトから閲覧できることが望ましい。

その他にも同じ講座を学習している受講者同士が意見交換することも最新のeラーニング技術では可能であることから、受講者同士あるいは講師と受講者がテレビ会議システムなどを通して、リアルタイムにFace to Faceの座談会や討議を行うなど、ともすれば孤独になりがちな自宅学習の中でモチベーションを上げる方法の1つとして、今後の取り組みを検討していきたい。